

○議長（白石 幸喜君） 日程第1、一般質問であります。

一般質問は先の通告の順で行います。

3番、黒木敏浩君の質問を許します。

○議員（3番 黒木 敏浩君） 議長。

○議長（白石 幸喜君） 3番、黒木敏浩君。

○議員（3番 黒木 敏浩君） それでは、先に通告しておりました教育行政の取り組みにつきまして、教育長にお伺いいたします。

教育長は1月に就任され、まだ2ヶ月が経過したばかりですが、慣れない中で業務を遂行いただいております、今後の活躍に御期待を申し上げます。

教育長は以前、村所小学校に勤務いただいたことや、県の文化財保護に関連して神楽にも携われたことで、本村の学校教育の在り方や村民性については、御理解をいただいていることと思います。

本村では、子どもたちを「村の宝」と位置づけ、行政をはじめ、学校・家庭・地域が一体となって子どもたちの成長を見守り、支援を行っています。

学校においては、先生方や関係者の皆様の御尽力によりまして、「神楽」や「民話語り」などの伝統文化、西米良の食文化を取り入れた授業や県内でも最先端の「IT機器を駆使した教育の情報化」が進められており、独特の教育環境が整えられています。

また、塾のない本村では、東大生によるオンライン塾を開催し、学力格差を解消する取り組みも行われています。

一方、子どもの成長には「学習面の成長」とともに「体の成長」が欠かせないものとなっていますが、給食センターでは地元で採れた食材を使用した地産地消の取り組みも行い、栄養バランスのとれた給食の提供が行われています。

伝統文化につきましては、神楽が令和5年3月に国の重要無形民俗文化財に指定されたことは、村民の大きな喜びであったとともに、改めてその重要さと伝承していく責任を実感したところです。

「語り部の会」については、村内に昔から伝わる民話の掘り起こしを行い、それを「語って聞かせる」という活動を通じて、伝承に大きな貢献をされています。

しかしながら、人口が1,000人を切る状況となっている今、あらゆる方面に様々な

問題が出てきています。学校では児童生徒数が減少したことに伴って、複式学級の導入など、小規模校ゆえの問題も山積しているのではないかと思います。

今、「学校の在り方」が検討されていますが、小規模校だから西米良だからできる教育環境が構築されるよう期待をいたしたいと思います。

学校給食の調理は現在、会計年度任用職員のみで行われていますが、「食物アレルギー」など、新たな問題も出てきていると聞いています。調理の現場に専門性を持った正職員を配置し、食の安全を確保する職員体制づくりが必要ではないかと思っています。

神楽については、後継者不足と各地区の人口が減少したことにより、夜神楽を斎行することが難しい地区も出てくるなどの問題も起きています。先人から延々と引き継がれてきた神楽を後世に伝えるためには、伝承していくための新たな方法を模索しながら努力していかなければならないと思っています。

このような状況を踏まえ、①学校教育に取り組む基本的な考え方について、②給食センターの職員体制の確保について、③神楽などの伝統文化の伝承について、以上3点について、教育長のお考えをお伺いします。

○教育長（野添 和洋君） 議長。

○議長（白石 幸喜君） 教育長。

○教育長（野添 和洋君） 3番、黒木敏浩議員から質問のありました、1つ目の学校教育に取り組む基本的な考え方についてお答えいたします。

「教育は国家100年の計」という言葉があります。人づくりこそが国づくりの要であり、長期的な視野に立って人を育てることの大切さを説いた言葉です。

この言葉は本村にも当てはまり、実際に歴代の村長をはじめ教育長、村議会議員等の皆様は、先見の明をもって子どもたちにとって最適な人的環境、物的環境は何かをその時々で真剣に考え、惜しみなく教育に予算をかけ、村民一丸となって子どもは村の宝として見守り、育てていただきました。その結果、西米良の子どもたちは、高い学力の水準を維持しているばかりではなく、菊池の精神が息づく教育が実現できており、ふるさとを愛する心の醸成が図られてきました。

しかしながら私が在籍していた20年前と比べて、村民の皆様の志は変わりませんが、1,500人近くいた人口も今は1,000人を切り、解決しなければならない地域課題

も増えたように思います。

今後は、子どもたちの学力向上はもちろんのこと、西米良村を未来永劫に持続可能なものにしていくために、西米良に帰ってきて働きたい、西米良を離れていても何か役に立ちたいと、社会貢献できる人材を育成していけるよう、学校・家庭・地域が一体となって、西米良ならではの教育の充実に努めてまいります。

次に2つ目の給食センターの職員体制の確保についての質問にお答えいたします。

本村の給食センターでは、常勤職員5名、栄養教諭1名の計6名で運営しております。現体制におきましては、食の安全を確保するために、毎朝、調理前に栄養教諭を中心としたミーティングを実施しております。また、給食センターの主任が毎日給食の実施状況を給食センター長がいる教育委員会にきて、報告・連絡・相談を日常的に行っております。さらに年2回の学校給食共同調理場運営協議会においては、学校、PTA、教育委員会関係者だけでなく、学校医や学識経験者も状況を把握しながら、専門的な見地から助言をいただき、安心安全な給食を提供できるように、細かな対応を行っているところでございます。

議員御指摘の食物アレルギーにつきましても、現在給食センター長である教育総務課長が中心となって、栄養教諭や養護教諭、保健師とも連携しながら、児童生徒の食物アレルギーに関する情報を保護者や主治医などから集約し、様々な対応を協議しているところであります。今月中には食物アレルギー対策委員会を開催し、来年度の方向性を決定し、校内の危機管理体制を構築してまいります。加えて、緊急時に備えて、有識者を招いての具体的な対応訓練や研修の実施も予定しております。

今後も安心安全な給食を提供できるよう努めてまいりますとともに、給食センターの職員体制につきましても、安定的な運営につながるよう、調理員の増員、センター長の配置について、引き続き村当局と協議してまいります。

次に3つ目の神楽などの伝統文化の継承についての質問にお答えいたします。

全国的に見ても米良は民族の聖地であり、本村は民族文化の宝庫であり、先人たちが残した神楽や民話・民謡資料や焼き畑などの有形無形の価値ある伝統文化が現在まで保存・継承されております。しかしながら、コロナ禍の影響で全国の多くの祭りや伝統芸能が休止や規模縮小し、窮地に立たされている中で、西米良の伝統文化を未来永劫につないでいくための大切な過渡期に来ており、何らかの策を講じる必要があります。

ます。

そのためにまずは後継者育成、そして西米良の伝統文化を応援していただき、関係人口・交流人口を増やすための新しい取組を実施する計画を立てております。

後継者育成に関しては、メラスポ講座に、新たに神楽と民謡の講座を加え、先生方や先生のお子さん方も含めて、広く村民の皆様が伝統文化に親しむ機会を設けていきます。具体的に神楽については、後継者の少ない小川と越野尾の保存会、民謡については、村上三絃道の協力を得て、月1回程度の講座を実施し、伝統文化を継承していくとともに、関係人口を増やしてまいります。また、すまいる課と連携したクラウドファンディング型ふるさと納税や企業版ふるさと納税にも着手し、伝統文化をつないでいくための寄附を募り、返礼品として神楽のワークショップ体験や、民話・語り部ツアー、村上三絃道の講演等を実施し、村外からの交流人口を増やしていきたいと考えております。さらには、来年度に開催される大阪関西万博において、米良の神楽の6つの保存会が一丸となって、ユネスコ無形文化遺産の登録に向けた情報発信に取り組んでまいります。

以上申し上げまして、黒木敏浩議員の質問に対する答弁といたします。

○議員（3番 黒木 敏浩君） 議長。

○議長（白石 幸喜君） 3番、黒木敏浩君。

○議員（3番 黒木 敏浩君） 御回答ありがとうございました。

それで重ねておきたいんですけども、今の学校教育の取組についてですね、今までに村が取り組んできたこと、それを踏まえながらやっていくということですね、回答頂きました。

その中で、具体的に教育長が今考えておられる取組がありましたらお聞かせ願いたいと思います

○教育長（野添 和洋君） 議長。

○議長（白石 幸喜君） 教育長。

○教育長（野添 和洋君） まずですね、これまでICTの取組、リーディングDXですね、これ2年間ですね指定を受けておりますので、こちらに関しては引き続き行っていく予定であります。後ほどですね濱砂恒光議員のほうからもまた、学校教育に関する質問がありますので、先日、宮崎大学との連携協定を結びましたけれども、その

具体策についてはまたお伝えしたいと思います。

まず、今年度からですね、小中一貫校がスタートしたわけであります。このメリットとしてはですね、小学校、中学校の先生方がそれぞれの学校に乗り入れをすることができるということで、現状、小学校ではですね、中学校の数学、英語、音楽、理科の教科の先生方が乗り入れ頂いています。また、小学校の先生方もですね、家庭科、体育の先生が乗り入れをして、より専門的な授業をですね展開できているということです。これをまた引き続き継続してまいりたいと思っております。

ただ、一貫校としてですね、分離型とか、施設一体型、いろんな併設型形があるわけですが、本村の場合は、施設が離れておりますということで、校長にかなり負担がかかっているという現状もございます。そこをですね、解消できないかということで、今、教育委員会のほうにですね、県の教育委員会のほうに、例えば、教頭2人いるうちの1人を副校長にして、ある程度の権限を持たせて人事評価等を行うなどしてですね、また進めることはできないかと思っているところです。

ですので今年度スタートした小中一貫校に関してですね、さらに充実していくように努めてまいりたいと思っているところであります。

○議員（3番 黒木 敏浩君） 議長。

○議長（白石 幸喜君） 3番、黒木敏浩君。

○議員（3番 黒木 敏浩君） ありがとうございます。

今までのICTのこととかですね、小中一貫校のこと、これもまたこのいいところとして進めていただいたということで、御期待をしたいというふうに思います。

それから次ですけども、給食センターの職員体制についてはですが、これ人事等の関係もございますので、正職配置というのは難しい面もございます。今後、村当局と協議していただくということですので、そちらのほうには期待をいたしたいというふうに思っております。

それからもう1つですけども、神楽の伝統文化の伝承ということで、小川・越野尾の方がですね、厳しいということもあり、また村所神楽のほうもですね、竹原・上米良・横野あたりがですね、夜神楽の開催できない状況もございますので、そういった面も私たち氏子のほうはですね、そういったことで取り組んでいかなくちゃならないと思っています。また社人のほうもですね、しっかりと伝統文化ということで、しっ



かりした継承をしていきたいというふうに思っているんですけども、また教育委員会関係の問題じゃないんですけども、全体として取り組むということで、この神楽のですね、先ほど聞いた中では神楽の魅力をどんどん発信していただいて、そういった行事も村内で開催していただくということで、村民の方の理解、それから村外の方の理解、そういったものが進んでいくといいのかなというには思っているところです。

それからこれあの一般会計の中での質問にもなろうかと思うんですけども、大阪万博でのPRですね。これについては、映像を流すということで聞いているんですけども、それについて特にまた変わったものとかありましたら教えていただきたいと思います。

○教育長（野添 和洋君） 議長。

○議長（白石 幸喜君） 教育長。

○教育長（野添 和洋君） お答えいたします。

大阪・関西万博のですね、VR動画についてですね、現状3Dの3つの保存会、5分程度のものを作成しております。

また、2Dについてはですね、これは3分程度のものを1つにまとめて作成しているということで、実際私のほうもですね、大阪・関西万博のほうに行かせてもらって、実際の動画だけではなくてですね、西米良の神楽を広く情報発信できるといいなと思っています。

私自身が県の文化財課にいたということもありますし、県の博物館のほうで民族の学芸員をしていましたので、できましたら神楽衣装を着てですね、また広く発信していきたいなと思っているところであります。

○議員（3番 黒木 敏浩君） 議長。

○議長（白石 幸喜君） 3番、黒木敏浩君。

○議員（3番 黒木 敏浩君） いま3件お尋ねしてですね、それぞれお答えをいただきました。また来られて本当に間もないということなんですけども、問題も山積している状況でもあります。

今までの学校教育の在り方とかですね、村の取組方、そういったものも本当にしっ

かりつないで頂いて、素晴らしいものができるように今後とも活躍をお祈りして、質問を終わらせていただきたいと思います。

ありがとうございました。